

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイサービス、2・3階に有料老人ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。その4階からの眺めは素晴らしく、朝に夕に富士山を望む事ができ、入居者の方々も景色を眺めて楽しんでおられる。施設は定員が9名と少人数なので職員は一人ひとりに寄り添い、じっくりと関わり合いを持ちながらケアを行なう事を心がけている。又、コロナ禍前は町内会の行事へ頻りに参加して交流していたが、今は感染防止のため全てが中止となっている。コロナが早く終息する事を願いながら、町内会との関係維持に努めている。そして、外出の機会がなくても施設内での体操やレクリエーション活動を職員全員で検討し、入居者の方々が充実した生活が送れるよう支援している。緊急事態宣言中は、ご家族等に感染拡大防止のため制限を設けての面会でご不便をおかけしたが、日常のご様子などは従来通り毎月の健康だよりで細かくお伝えしていた。尚、ワクチン接種は入居者と職員全てが二回の接種を済ませ、今後も感染予防対策を徹底し入居者皆様が元気で安心して生活していただけるよう努めていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「自分に出来る事を見つけよう。そして続けていきましょう。」として、ホームに掲示し、ホームページにも掲載している。自立支援を大切にしており、掃除、洗濯物たため、食事の後片付けなどを職員の見守りのもと、おこなっている。看取りについては「グループホームにおけるターミナルケア」として指針を定め、入居時に本人・家族に説明をしている。終末期が近づいた時点で、医師、家族、職員でカンファレンスで検討し、利用者や家族に寄り添えるよう努めている。コロナ禍で外出は制限されているが、近隣の散歩に出ている。コロナ禍以前は地域との交流を盛んにおこなっており、町内会の夏祭りに参加したり、中学校の職場体験等を受け入れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」との理念を職員が共有し、入居者一人ひとりのやりたい事、出来る事を見定め、掃除、洗濯、食事の片付け等職員と一緒にこなすなど出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。	理念は「自分に出来る事を見つけよう。そして続けていきましょう。」としてホーム内に掲示し、ホームページにも記載し周知している。入居者の自立支援については、手を出しすぎないこと、時間をかけても見守ることを職員に徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でいろいろな行事等も中止となって利用者が直接地域とつながる事がなくなったが、事業所は町内会長と連絡を絶やさないようにしている。	コロナ禍で現在は中止となっているが、以前は町内会の夏祭りに参加したり、中学校の職場体験を受け入れたりしていた。また、ホームのカラオケ大会には地域住民が参加していた。コロナ禍の現在は、町内会長と連絡を取り合うことで地域との交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では施設での認知症の方達への日頃の対応や見守りの方法等をお話ししていたが、度重なる会議の中止で現状は困難である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、いまだ会議の開催を見送っているが、高齢者相談センターや町内会長へとは頻りに連絡を取り合っており意見を伺っている。	今年度は書面により開催しており、報告中心である。例年の運営推進会議には家族会代表、町内会長、地域包括支援センター担当者などが参加している。入居者の状況および避難訓練等について報告し、意見交換をしている。	運営推進会議は書面報告としているが、書面でのやり取りの機会に利用者家族をはじめ、広く参加者からの意見をもらうことも期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	屋敷地域ケア会議に出席し、各事業所の取り組み等についての情報交換を行うなかで協力関係を築くように努めている。	市の担当課とは日頃からやりとりがあり、何かあれば相談できる関係性がある。また、地域包括支援センターは運営推進会議にも参加しており、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、言葉による拘束も含め身体拘束について正しい理解が出来るようにしている。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回以上行い身体拘束をしない適切なケアに職員は取り組んでいる。	「身体拘束等適正化のための指針」を策定し、基本的考え方、基本方針を整備しており、対応手順はフローチャートにして職員に周知している。身体拘束廃止委員会を3か月に1回実施し、言葉による拘束などが発生した場合には、管理者から指導をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修を通して学ぶ機会を設けている。言葉の虐待を始めケアを行なう中で職員全員がお互いに注意を払い、気づいた点があればその都度改善点を話し合い虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には資料配布や外部研修や内部研修に於いて学ぶ機会を設けている。現場で勉強会などを設け理解が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や入居後も、入居者や家族の不安や疑問には十分な説明を行い、理解、納得して安心してご入居出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に事業所に訪れていた市の介護相談員も、ご家族もコロナ禍で面会等の制限があるのでご意見等伺う機会がなくなっている。	家族からは電話や訪問時に意見を聞いており、苦情・相談記録に記録して対応をしている。意見については、検討して反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からいろいろな意見や提案を聞くようにしているが、代表者へ直接訴える機会はない。	申し送りの時などにも意見は出ている。共有すべきことがあれば、臨時にミーティングを開いて意見交換している。有給休暇の取得など処遇のあり方についても話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力や実績、勤務状況を常に把握し、職員全員が働きやすく向上心が持てるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月1回行われていた研修は、現在自粛しているが、感染予防対策を徹底し、少ない人数で行いたいと検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市全体も自粛しているので、ホームページやネットなどで情報を得るようにしている。また、オンラインでの交流も検討したいと思っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談から入居に至るまで、本人の意向や不安要因などに十分に配慮を行い、要望等確かめながら本人の想いに寄り添い安心して生活できるホームだと心理して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の不安や要望これまでの経過、現在困っている事などを聞く機会を設けている。入居後も面会時に現状を伝えるなど家族との信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は不安な状態もあり、本人・家族の意向を十分に受け止め、必要とされている支援を正しく把握するように心掛けている。又その他のサービスも含め対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように寄り添い、一緒に出来る事を見つけ、一緒に喜んだり、困ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を毎月の便りや電話などでお伝えし、職員では成せない事を家族に協力を得ることでご本人とご家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来ならば今までの関係が途切れないように支援したいが、コロナ禍で誰もが外出など自粛しているので、雑誌や映像で生地などのお話をして盛り上がっている。	本人の希望を確認しながら、電話の取次ぎや手紙のやり取りをサポートしている。また、感染対策を徹底したうえで、相談室での面会を可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちを尊重し孤立することがないように、体操やレクリエーション等へお誘いし、入居者同士が関わり合う事が出来る様努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人・家族からの相談は随時おこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご本人の思いが一番大事だと思っている。日頃から利用者一人ひとりの暮らし方の希望や意向のに耳を傾け、情報は共有している。	個人の尊厳を念頭に置き、一人ひとりの思いの把握に努めている。会話の中や仕草から気づいたことがあれば、申し送り、介護記録にて職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、本人や家族から入居前の生活歴、暮らし方を聞き、出来る限り今までの生活に近い過ごし方をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を日々注意深く見守り、心身状態等の現状を把握し申し送りなどで職員間で共有し、その方にふさわしい過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、ご本人の希望やその他多くの意見を反映している。	計画作成担当者が毎月モニタリングをおこない、現状に即した介護計画書を作成している。日々の介護記録を基に、3か月に1回カンファレンスを実施して、変更が必要な場合は検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子は個別毎の記録に詳しく記入し申し送り等で報告している。職員間で情報を共有する事でケアの見直しを行い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、新たなニーズには出来る限り対応できる様、職員一同柔軟な支援やサービスに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではコロナ禍が終息しているとは言えないが、これからの季節を楽しむことができるよう、例えば車窓からのお花見などを検討していきたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医でも、入居後の訪問医でも適切な受診ができるように事業所での情報も提供して支援している。	利用開始時に訪問診療医と契約し、月2回の訪問診療と週1回訪問看護を受けている。専門医の受診が必要な場合は、情報を提供して、家族同行で受診している。困難な場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや観察で入居者の状態を把握し、異変を感じたら看護師へ報告し指示を受け対応している。主治医や家族に報告し適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーなど医療機関に情報提供をすぐに出来るようにしている。又、入院後も早期に退院できるように医療連携室との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の折にもターミナルケアについての説明を行い、その後の体調の変化の度にご家族等と話し合い、現状の説明をしている。	利用開始時に、グループホームにおけるターミナルケアについて書面で説明し、食事が摂れなくなった時点で医師、家族、ホームで話し合い、書面で意思確認をおこなっている。職員は、家族の不安を軽減するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来る様にマニュアルを作成し、職員は周知している。看護師からは常に適切なアドバイスが受けられる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は1階から4階までの全職員で行って、昼夜を問わず避難できる方法を身につけている。地域との協力については今一度努力が必要と思っている。	災害時の避難訓練は、ホームと同ビル内にある法人事業所と合同で年2回、日中、夜間備蓄品は一覧表にして、定期的に確認することもよいと思われる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、プライバシーの配慮については、職員全員で対応できていると思っている。	個人の尊厳、プライバシーの確保について、社内研修を実施して、全職員が共有し実践に努めている。今後はリモート研修ができるように、準備を進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せるような雰囲気や日常的に作り自分で納得しながら暮らせる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は決まりや業務優先ではなく、入居者一人ひとりに向き合いその方に合わせた過ごし方が可能な限り出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞き職員と一緒に洋服を用意するなど清潔感のある身だしなみが出る様に努めている。又、月に一度訪問理容を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を利用している為献立は決まっているが、入居者の希望や一人ひとりの嗜好に合わせた献立に変更することもある。職員と一緒に食器拭きや片付けなどをして頂いている。	食材は業者が搬入し、職員が調理している。利用者に希望を聞いて、献立を変更する場合もある。下膳など、利用者はできる事に参加している。お正月は、お餅の代わりにお赤飯を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録に残し、一人ひとりの食事形態や摂取状態を把握し、常に必要な栄養が摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、一人ひとりの口腔内の状態を把握し常に清潔保持出来る様に努めている。口腔内に問題点がある時は訪問歯科の往診も行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、トイレでの排泄を習慣とすることとしている。	水分管理、体操を継続して実施し、自然な排泄につなげるようにしている。トイレ誘導は、個別のタイミングにあわせて声掛けをして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便の確認をしている。食事や水分、服薬にて調整し、毎日適度な運動を行うなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日としての曜日は決めさせて頂いてはいるが、夏場や個々の体調などでいつでも対応できるようにしている。	入浴は週2回であるが、夏の暑い時や、体調の変化に応じて柔軟に対応している。入浴をしたくないという利用者については、医師に相談したり、職員同士が連携して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中は出来るだけ体操やレク等で体を動かし、適切な生活のリズムが整うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬について理解をしている。チェック表を用いて確認し誤薬や薬の飲み忘れなどにも十分に注意し、内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や出来る事、興味のある事などを把握し役割を決めるなど、得意分野で力を活かす事により有意義な生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出掛けてはいないが、歩いていけるコンビニには個人のご希望に添って個別に対応している。	感染予防のため外出は制限しているが、コンビニでの買い物や、外気浴のための散歩はできるだけ実施している。年間行事として、初詣、節分、お花見、夏祭り、流しそうめんなども計画されている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では現金を持つことを希望される方はいないが、所持して使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とも相談し入居者の希望に応じてその都度家族や大切な人に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの時間を過ごすリビングには、季節毎に作成している作品を飾っている。また、寒い時期の床暖房は皆様に好評である。	リビングは明るく、床暖房で快適である。新聞を読んだり、季節ごとに利用者が作成した作品を掲示している。利用者は新聞を読んだり、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、車椅子を使用している方が居る為、安全を重視しているが、気の合う入居者同士で自由に過ごせる様な環境作りをしている。又常に職員が気配りをし孤立する入居者が出ないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものなどをご自宅からお持ちいただいている。又、ご家族のアルバムや写真、今は興味がなくとも過去に読んでいた雑誌や本もお持ちになる方もいらっしゃる。	居室は、利用者の希望する物や使い慣れた家具などを持ち込んで、寛げるようにしている。持参したアルバムを見たり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、ご自分の部屋が分かるよう手作りの作品などを飾り目印としている。廊下には手すりを設置し安全に自立した生活が送れるように工夫をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと